

令和6年播種用

飼料用イネの 栽培と品種特性

飼料用イネの生産には専用品種を使いましょう

耕畜連携

粗飼料確保

濃厚飼料の節減

一般社団法人 日本草地畜産種子協会

<http://souchi.lin.gr.jp>

飼料用イネ専用品種の上手な栽培方法と利用

1 品種と播種量など

【栽培の基本は食用イネに準ずるが、以下の点に留意】

- 品種の千粒重に応じて播種量を増やしましょう。食用イネ品種より多めにすることが必要です。

飼料用イネ専用品種は、食用品種よりも種子粒の大きな品種が多く、食用品種と同じ播種量だと欠株の発生や直播での苗立ちの不足を生じることがあります。13ページの籾粒数早見表のとおり、例えば「リーフスター」は食用品種「コシヒカリ」並の播種量でかまいませんが、「べこあおば」はおおよそ1.5倍の播種量が必要です。

- 種子の芽出し揃え（浸種）

飼料用イネ専用品種は食用品種と同様に水温10～15℃で行い、積算水温※160～80℃を目安に芽出し揃えをします。飼料用イネ専用品種は食用品種に比べ、発芽・出芽時の水温の影響を受けやすく、低い浸種温度（10℃以下）の場合、出芽不良や苗長のバラツキ等の発生の一因となり、水温が高いと吸水は早くなりますが出芽のむらを生じやすくなりますので、温度管理には十分注意を払ってください。ただし、気温の低い4月に乾田直播をする場合は、浸種・催芽された種子は低温によるダメージを受けやすいので浸種は不要です。浸種する場合は、酸素不足にならないようエアレーションや水の交換を励行しましょう。

※1：積算水温とは、毎日の水温の積算で、水温10℃あれば6日の浸種で60℃になります。

- 品種の草型に応じて栽植密度や苗立密度を増やして多収栽培

飼料用イネ専用品種は、分けつ数が比較的少ない穂重型～極穂重型の品種が多いため、特に分けつが抑制される気温の低い北日本や中山間地及び疎植栽培が盛んな地域では、移植時に栽植密度を高めたり、直播栽培では苗立数を多めに設定するなど多収に向けた栽培をしましょう。それ以外の地域では、分けつ過多は倒伏を招くことがありますので、注意しましょう。

- 漏生（ろうせい）イネの発生を防ぐ

収穫時に落下した種子が翌年生育し（漏生イネ）、食用イネに混入する場合があります。後作で食用イネを栽培する場合は、後作の食用イネを直播で栽培しない、暖地では飼料用イネ収穫後の早い時期に秋耕する等の対応策をとって下さい。

【直播栽培で特に留意すべき事項】

- 品種の倒伏性に留意して播種方法を選ぶ

一般に耐倒伏性は、散播では弱く、条播では中程度、点播では比較的強く、また乾田直播は、湛水直播よりも強いことが知られています。飼料用イネ専用品種は比較的耐倒伏性の高い品種ですが、直播栽培、特に湛水直播では倒伏性が問題になることがあります。したがって耐倒伏性の弱い品種は散播しない、耐倒伏性の強い品種でも散播での極多肥栽培は避ける等の注意が必要です。

2 肥培管理

- 専用品種の能力を活かすために多肥栽培をしましょう

一般的に飼料用イネ専用品種は、食用イネ品種より生育が旺盛です。その能力を最大限活かすためには移植栽培、直播栽培とも食用イネの1.5～2倍程度の多肥栽培が必要です。窒素の施用は、飼料用イネの粗タンパク質含量を引き上げる効果もあります。穂重型～極穂重型の品種では、分けつ期の追肥が莖数確保に有効です。出穂前30～40日ごろに葉色が急激に低下する場合、多収を得にくくなるので早めの窒素追肥を4kg/10a程度行ってください。なお、飼料用米については、出穂期以降の追肥（実肥）も効果的です。

- 倒伏防止の水管理をする

倒伏防止や大型機械による収穫をスムーズにするため、莖数を減らさない程度に、強く中干ししましょう。落水は、品種の早晚や生育状況・ほ場条件を考慮し収穫時期に応じて行いましょう。晩生種は出穂期以降降水不足にならないよう注意が必要です。

3 病害虫および雑草防除での注意点

● 種子伝染性の病害や種中中で越冬する害虫による被害の防止

当協会が供給する種籾は種子消毒をしていません。種籾が種子消毒されていない場合は、いもち病、ばか苗病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病等の種子伝染性の病害や、イネシガラセンチュウの虫害を防止するため、温湯浸漬法や農薬使用による的確な種子消毒を行って下さい。

● 農薬施用上の注意点

「モミロマン」、「ミズホチカラ」、「みなちから」は、水稲用除草剤の成分である「ベンゾビスクロン」、「テフリルトリオン」、「メソトリオン」に感受性なのでこれら成分を含む除草剤は使用しないでください。

なお、このカタログに掲載している他の品種は、同剤に感受性ではありません。

また、その他農薬の使用に当たっては、「**飼料として使用する籾米への農薬の使用について（最終改正令和4年12月22日 4消安第5108号 4畜産第2048号 4農産第3850号）**」及び「**稲発酵粗飼料用籾に係る農薬使用について（4畜産第2047号）**」（令和4年12月22日付け）に掲載されている薬剤^(注)を使用し、ラベルに記載されている「収穫前〇〇日まで」等の利用上の注意事項を守りましょう。また、飼料用米を籾のまま家畜へ給与する場合は、出穂期以降に使用できる農薬が限られているのでご注意ください。それ以外の農薬を出穂以降に散布する場合は、籾すりをして玄米にしてから、家畜へ給与しましょう。

なお、飼料用イネの農薬使用にあたっては、地域の普及センター等指導機関にご照会下さい。

農薬の種類（成分）と農薬の名称（製品）の対照表は（一社）日本草地畜産種子協会ホームページ内（souchi.lin.gr.jp/skill/pdf/skill-20230301.pdf）をご覧ください。

(注) 農薬使用基準が一部改訂されることがありますので、詳しくは農業改良普及センター等へお尋ねいただくか、農林水産省のホームページから 政策情報>農業生産>畜産>飼料に進み (https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/L_siryo/index.html) ご確認ください。

4 稲発酵粗飼料（WCS^{※2}）の収穫と調製の留意点

● 出穂後日数を目安に刈取りましょう

従来品種の刈取適期は糊熟期^{※3}から黄熟期^{※4}が、最も単位面積当たりの収量が高くなります。黄熟期は作期条件にもよりますが早生で出穂後25～30日、中生や晩生で30～40日前後、玄米多収品種の「モミロマン」は40～50日前後です。収穫が早すぎると籾水水分が高いため稲発酵粗飼料の品質が低下することがありますので注意が必要です。なお、極短穂型品種の「つきはやか」、「つきあやか」、「つきすずか」、「つきことか」、「たちあやか」、「たちすずか」は刈取りステージが進んでも消化率が低下しないので早刈りせず、糖含量が十分に高まる出穂後40～70日以降の収穫が望ましいです。

● 稲発酵粗飼料の調製

サイレージ調製時に乳酸菌を添加することにより、発酵品質及び貯蔵性の向上を図ることができます。

※2：稲発酵粗飼料とは、イネの茎葉、子実を含む植物体の総てを利用して作るサイレージのことで、イネホールクロップサイレージ（イネWCS）とも言います。

※3：糊熟期とは、穎が黄緑色で、穀粒は葉緑素が残っており黄緑色、胚乳は糊状。

※4：黄熟期とは、半数の穎が黄化した状態。穀粒は葉緑素が消失した黄色、胚乳はロウ状、穀粒は爪で容易に破砕できる状態です。

5 飼料用米の収穫と調製の留意点

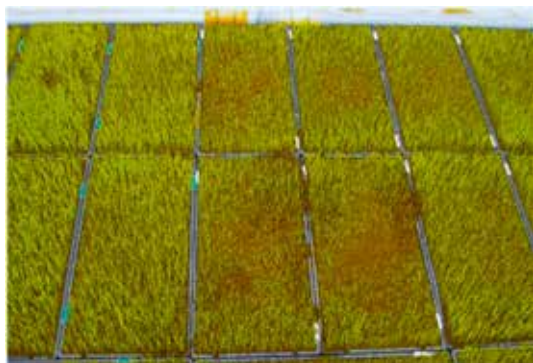
飼料用米の乾燥調製については、食用米で求められる食味・外観品質を考慮する必要がないので、乾燥時の温度を高め設定して乾燥効率を上げましょう。また、粒厚・色彩選別の省略や、脱粒倒伏に問題ない範囲で収穫を遅らせて立毛乾燥で水分を落とすなど、乾燥調製のコスト低減のための工夫をしましょう。

【飼料用イネ種子の外観と取扱について】

- 浮籾について：生産年、生産地により異なりますが、飼料用イネ種子は食用種に比べて比重が軽く、水に浮きやすい傾向にあります。
- 籾の色について：生産年、採種地及び品種等によって異なります。特に「クサホナミ」は褐色になりやすく、「リーフスター」は、ほぼ全粒が褐色となります。一般に食用品種に比べ種子に光沢がありません。
- 保管条件について：種子は出荷まで低温低湿倉庫に保管されています。種子到着後は冷暗所に保管し、高温多湿な場所に放置しないようにしましょう。
- 種子増殖について：栽培用として流通している種子から生産された籾米を、種子として有償・無償を問わず、育成者権の許諾無しに栽培者へ頒布することは種苗法により禁止されています。自家増殖の扱いについては、農研機構の許諾条件を順守してください。当協会の取り扱う飼料用イネ品種種苗の海外への持ち出しは禁止です。

低温浸種による2次休眠の防止策

- 飼料用イネ種子は休眠が充分打破された種子であっても、浸種時の水温が低く浸種時間が長すぎる場合、イネ種子が再び休眠に入ることがあり、これを2次休眠と呼びます。飼料用イネ品種は2次休眠を生じやすい傾向があります。
- 2次休眠は、10℃以下の低温での長時間浸種が原因となり、発芽不良や発芽揃いが悪くなります。このため、浸種時の水温と浸種時間に注意し、水温10～15℃の範囲内とし、積算水温も食用イネよりやや低めの60～80℃とします。(水温10℃であれば6日間、15℃では4日間)
- 水温は浸種場所の気温に影響されるため、気温が低い地域で地下水を使用する場合、最初は適正な水温であっても時間の経過とともに下がってしまうので注意を要します。



出芽時の温度不足により出芽むらが生じた苗箱



育苗時の低温により葉が黄化し、根の張りが悪い苗

稲こうじ病とは…

- 伝染源は厚壁孢子であり、厚壁孢子は土壤中で越冬し翌年に植えたイネが感染します。
- 飼料用イネの多くは本病に弱いため、薬剤防除が望ましいです。出穂期15日前を基準に銅剤を散布すると、最も防除効果があります。
- 種子に稲こうじが混入していても、的確な種子消毒を実施すれば容易に死滅させることができます。
- 農研機構は「(研究成果)イネ稲こうじ病の防除技術標準手順書」を公開しています。

(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/138528.html)



ばか苗病とは…

- ばか苗病は主に種子伝染で蔓延しますので、防除のためには種子消毒を徹底して下さい。
- 種子消毒はDM剤などの合成農薬を用いた薬剤防除が効果的です。
- 温湯消毒や微生物農薬による防除は、単用では効果が不十分なため、これらを複数組合わせて処理して下さい。



飼料用イネの詳しい栽培・利用法は、お近くの試験場、農業改良普及センター等の研究・指導機関にご照会いただくか、下記のホームページをご覧ください。

1. (一社)日本草地畜産種子協会ホームページ (<http://souchi.lin.gr.jp/>) の“技術情報”“技術資料関係報告書”に進み“稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル 第7版”。
2. 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構のホームページ (https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/index.html) より、“飼料用米の生産・給与技術マニュアル〈2016年度版〉”。

イネWCS用 極短穂 型品種の使い分けのポイント

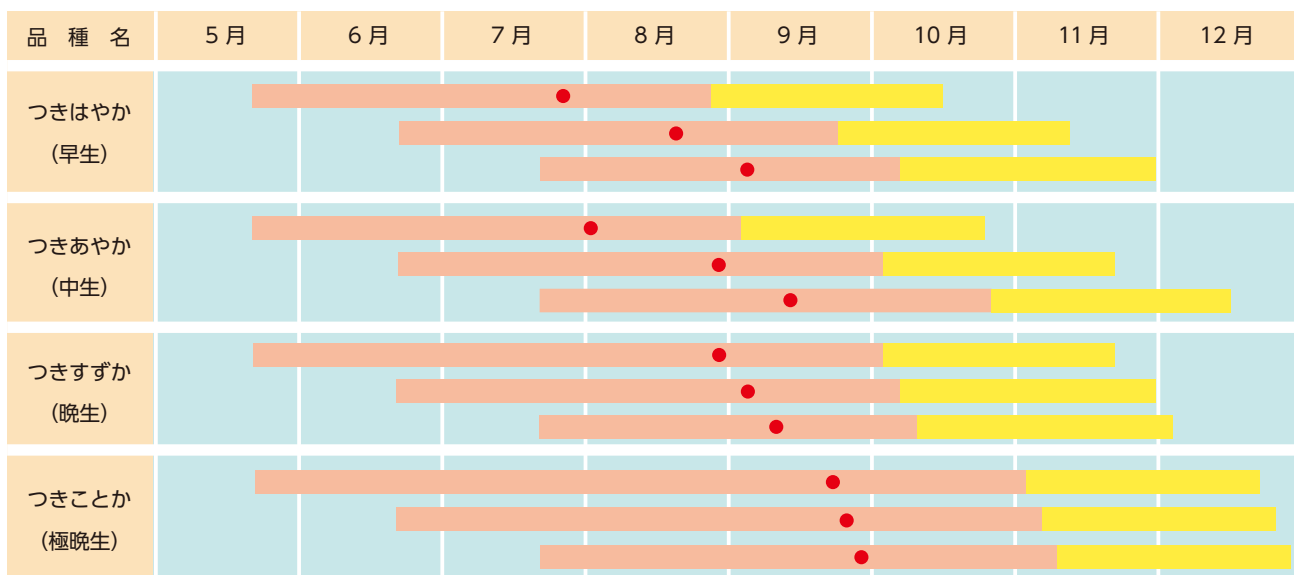
● 極短穂型品種は消化性・嗜好性に優れ、良質サイレージ生産が可能です。

- 極短穂型品種は穂が短く籾の収量が極端に少ない品種です。
- 光合成された糖分が籾ではなく茎葉に蓄積されることなどから、牛の嗜好性や消化率が高いです。
- WCSの乳酸発酵が促進され、飼料として長期間の保管が可能です。

● 栽培地域と移植時期に合わせて品種選択を！

育成地におけるイネ WCS 専用品種の移植時期による出穂期の早晩イメージ

● 出穂期 ■ 収穫可能時期



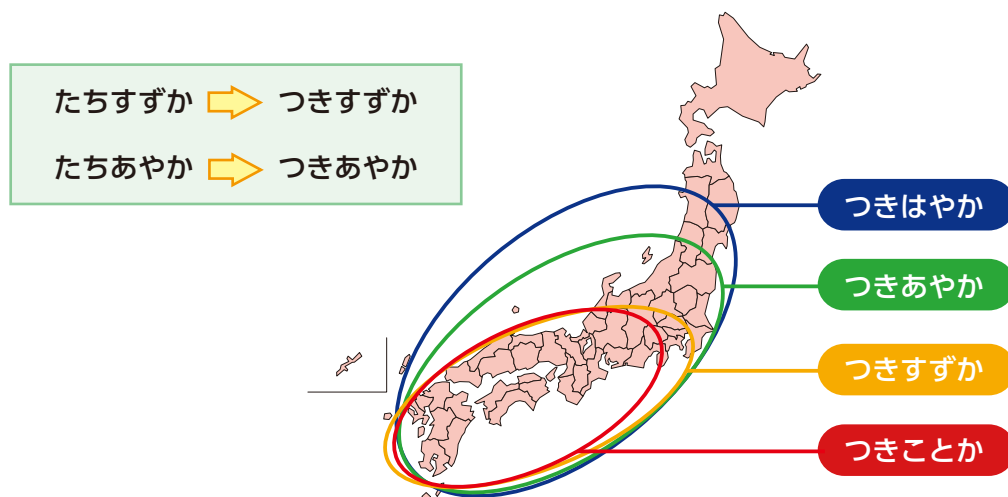
「つきはやか」、「つきあやか」は日長反応性（日が短くなったことを感じて花芽をつける性質）が弱いので、移植時期が遅れると、遅く開花（出穂）します。一方、「つきすずか」、「つきことか」は日長反応性が強いので、移植時期に関係なく、ほぼ同じ時期に開花（出穂）します。

暖地では晩生・極晩生の「つきすずか」・「つきことか」を早めに播種して生育期間を長くすることで多収が得られます。遅まきになってしまう場合は、日長反応性が低い「つきはやか」・「つきあやか」がお勧めです。

生育期間の短い関東以北では、中生の「つきあやか」、東北中部・東北南部では早生の「つきはやか」がお勧めです。

● 縞葉枯病の常襲地域では「つき〇〇〇」を！

つきはやか・つきあやか・つきすずか・つきことかの4品種は、縞葉枯病抵抗性が“付いたこと”（付き）から『つき〇〇〇』と命名されました。縞葉枯病の常襲地域では、この4品種からお使いください。



★ 極短穂型の詳しい栽培・利用法については、下記のホームページをご覧ください。

(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/135017.html)

令和4年
新発売

品種登録出願中

海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

WCS用イネ品種

つきはやか (中国飼224号)

極短穂

早生 縞葉枯病抵抗性・高糖分・耐倒伏性極強



特徴

- 東北では「夢あおば」より1週間早い早生。
暖地でも「たちあやか」より12日程早い。
- 東北中南部以南～九州向きで、特にこれまでWCS専用品種の栽培が困難であった東北での普及が期待される。
- 縞葉枯病抵抗性品種。
- 耐倒伏性は「たちすずか」並みの極強。
- 糖含量が「たちすずか」並みに高く、発酵品質及び嗜好性が良い。

栽培ポイント

- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
- 収穫は十分な発酵品質を確保するため、出穂期30～40日以降が刈取り適期。

| 品 種 | 試験場所 | 移植日 | 出穂期 | 稈長 (cm) | 穂長 (cm) | 穂数 (本/㎡) | 地上部 | | 茎葉部 | | 穂重割合 (%) |
|-----------------|------|------|------|------------|------------|-------------|-----------------|--------------|-----------------|--------------|-------------|
| | | | | | | | 乾物重 (kg/10a) | 夢あおば比 (%) | 乾物重 (kg/10a) | 夢あおば比 (%) | |
| つきはやか (夢あおば) | 広島県 | 6月5日 | 8月4日 | 101 | 19.7 | 225 | 1520 | 96 | 1169 | 144 | 23.1 |
| | 福山市 | 6月5日 | 8月6日 | 88 | 23.2 | 300 | 1588 | 100 | 810 | 100 | 48.9 |

※ 2016～2019年4カ年の平均。

令和4年
新発売

品種登録出願中

海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

WCS用イネ品種

つきあやか (中国飼225号)

極短穂

中生 縞葉枯病抵抗性・高糖分・茎葉多収・耐倒伏性極強



特徴

- 「たちあやか」より2日程早い中生で、東北中南部～九州向き。
- 縞葉枯病に抵抗性で、「たちあやか」の欠点を改良。
- 耐倒伏性は「たちすずか」並みの極強。
- 糖含量が「たちすずか」並みに高く、発酵品質及び嗜好性が良い。

栽培ポイント

- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
- 収穫は十分な発酵品質を確保するため、出穂期30～40日以降が刈取り適期。

| 品 種 | 試験場所 | 移植日 | 出穂期 | 稈長 (cm) | 穂長 (cm) | 穂数 (本/㎡) | 地上部 | | 茎葉部 | | 穂重割合 (%) |
|-----------------|------|------|-------|------------|------------|-------------|-----------------|--------------|-----------------|--------------|-------------|
| | | | | | | | 乾物重 (kg/10a) | 夢あおば比 (%) | 乾物重 (kg/10a) | 夢あおば比 (%) | |
| つきあやか (夢あおば) | 広島県 | 6月5日 | 8月14日 | 113 | 12.8 | 336 | 1770 | 111 | 1693 | 209 | 4.4 |
| | 福山市 | 6月5日 | 8月6日 | 88 | 23.2 | 300 | 1588 | 100 | 810 | 100 | 48.9 |

※ 2016～2019年4カ年の平均。

登録品種 海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

つきすずか

WCS用イネ品種 極短穂

晩生 縞葉枯病抵抗性・高糖分・茎葉多収・耐倒伏性極強



- 特徴**
- 晩生で、関東以西、九州向き。
 - 穂長は極短で、籾重は「たちすずか」よりさらに少ない。
 - 稈長は高いが重心が低く、倒伏に強い。
 - 縞葉枯病に強い。
 - 糖分含量が高く、発酵品質及び嗜好性が良い。
 - 消化されやすい茎葉の割合が高く、消化されにくい籾の割合が低い。
- 栽培ポイント**
- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
 - WCS生産では、早植え、多肥栽培が有効。

| 品 種 | 試験場所 | 移植日 | 出穂期 | 黄熟期 | 成熟期 | 稈長 | 乾物全重 | 玄米重 | WCS | |
|---------|------|------|------|-----|-----|-----|-------|-------|--------------------------|--------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN含量(%) ^{*1} | 推定TDN収量t/10a |
| (対象品種) | | 月・日 | 月・日 | 月・日 | 月・日 | cm | t/10a | t/10a | | |
| つきすずか | 福山市 | 6月4日 | 9月3日 | — | — | 121 | 1.73 | 0.05 | 53.0 | 0.95 |
| (たちすずか) | | 6月4日 | 9月3日 | — | — | 119 | 1.70 | 0.13 | 54.2 | 0.99 |

1)玄米重は乾物籾量の値 2)施肥窒素量は14.9kg/10a 3)2013～2016年の平均
 ※1 畜産研究部門の推定式による。

登録品種 海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

つきことか

WCS用イネ品種 極短穂

極晩生 縞葉枯病抵抗性・高糖分・茎葉多収



- 特徴**
- 極晩生（9月末出穂）で東海以西～九州向き。
 - 穂長は極短、籾重は2%程度で地上部はほぼ茎葉である。
 - 収量は「たちすずか」より2割多収である。
 - 晩植（6月下旬移植）でも籾重が増えず、麦後などの晩植栽培でも茎葉多収である。
 - 縞葉枯病に強い。
 - 糖含有率が高く、発酵品質及び嗜好性が期待できる。
- 栽培ポイント**
- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
 - 極長稈で倒伏のリスクがやや高いので、密植や極端な多肥は避ける。

| 品 種 | 試験場所 | 移植日 | 出穂期 | 黄熟期 | 成熟期 | 稈長 | 乾物全重 | 玄米重 | WCS | |
|---------|------|------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|--------------------------|--------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN含量(%) ^{*1} | 推定TDN収量t/10a |
| (対象品種) | | 月・日 | 月・日 | 月・日 | 月・日 | cm | t/10a | t/10a | | |
| つきことか | 福山市 | 6月5日 | 9月23日 | — | — | 138 | 2.13 | 0.04 | 54.7 | 1.17 |
| (たちすずか) | | 6月5日 | 9月2日 | — | — | 119 | 1.79 | 0.15 | 53.9 | 0.96 |

注) 2014～2017年平均、窒素施肥量14.9kg/10a
 ※1 畜産研究部門の推定式による。

登録品種

WCS用イネ品種

たちあやか

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

極短穂

中生 高糖分・茎葉多収・耐倒伏性極強


特徴

- 「たちすずか」より16日程度早い中生。関東以西の暖地の栽培に適する。
- 耐倒伏性は「たちすずか」並みの極強。
- 糖含量が「たちすずか」並みに高く、発酵品質及び嗜好性が良い。

栽培ポイント

- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
- 縞葉枯病に罹病性であるため、常発地帯の栽培は避ける。

| 品 種 | 試験場所 | 移植日 | 出穂期 | 黄熟期 | 成熟期 | 稈長 | 乾物全重 | 玄米重 | WCS | |
|---------|------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN 含量(%)*1 | 推定TDN 収量t/10a |
| (対象品種) | | 月・日 | 月・日 | 月・日 | 月・日 | cm | t/10a | t/10a | | |
| たちあやか | 福山市 | 6月10日 | 8月18日 | — | — | 112 | 1.62 | 0.10 | 56.1 | 0.89 |
| (ホシアオバ) | | 6月10日 | 8月15日 | — | — | 110 | 1.73 | 0.75 | 57.0 | 0.99 |

1)玄米重は乾物収量の値 2)施肥窒素量は20.1kg/10a 3)2008~2011年の平均

※1 畜産研究部門の推定式による。

登録品種

WCS用イネ品種

たちすずか

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

極短穂

晩生 高糖分・茎葉多収・耐倒伏性極強


特徴

- 晩生で、関東以西、九州向き。
- 極長稈にもかかわらず穂長は極短で、着粒粒数は「クサノホシ」の半分以下である。
- 重心が低く、黄熟期を過ぎても倒伏しづらく、収穫可能な期間が長い。
- デンプンを茎葉に貯蔵し、糖分含量が高く、発酵品質及び嗜好性が良い。
- 消化されやすい茎葉の割合が高く、消化されにくい籾の割合が低い。

栽培ポイント

- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
- WCS生産では、早植え、多肥栽培が有効。
- 縞葉枯病に罹病性であるため、常発地帯の栽培は避ける。

| 品 種 | 試験場所 | 移植日 | 出穂期 | 黄熟期 | 成熟期 | 稈長 | 乾物全重 | 玄米重 | WCS*1 | |
|---------|------|------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN 含量(%)*1 | 推定TDN 収量t/10a |
| (対象品種) | | 月・日 | 月・日 | 月・日 | 月・日 | cm | t/10a | t/10a | | |
| たちすずか | 福山市 | 6月7日 | 9月2日 | — | — | 121 | 1.87 | 0.23 | 58.1 | — |
| (クサノホシ) | | 6月7日 | 8月29日 | — | — | 110 | 1.78 | 0.72 | 52.4 | — |

1)玄米重は乾物収量の値 2)施肥窒素量は14.5~20.1kg/10a 3)2007~2009年の平均

※1 TDNは2010年広島県立総合技術研究所畜産センターにてフィステル装着牛を用いた測定値。

登録品種

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

WCS用イネ品種

リーフスター

晩生 茎葉繁茂型品種



特徴

- 晩生で、関東～中国・四国向き。
- 極長稈であるが耐倒伏性が強。
- 葉身と籾に毛が無い。
- 地上部のTDN収量は「はまさり」、「クサホナミ」よりも高い。
- 子実割合が少なく、茎葉が繁茂し地上部全量とTDN収量が高くWCSに好適である。

栽培ポイント

- 移植栽培では多肥栽培が適する。
- 極多肥の直播栽培では転び型倒伏に注意する。
- いもち病に見かけ上は強いが、基幹防除を励行する。
- 縞葉枯病には感受性なので、常発地帯での栽培は避ける。
- 苗箱への播種量は食用品種と同じ程度でよい。(P13. 品種別籾粒数参照)

| 品 種 (対象品種) | 試験場所 | 移植日 月・日 | 出穂期 月・日 | 黄熟期 月・日 | 成熟期 月・日 | 稈長 cm | 乾物全重 t/10a | 玄米重 t/10a | WCS | |
|------------------|----------------|------------|------------|------------|------------|----------|---------------|--------------|------------------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN 含量(%) ^{※1} | 推定TDN 収量t/10a |
| リーフスター (はまさり) | 茨城県 つくばみらい市 | 5月17日 | 8月31日 | 10月5日 | 10月16日 | 109 | 1.92 | 0.42 | 61.0 | 1.17 |
| | | | 8月31日 | 9月30日 | 10月8日 | 96 | 1.73 | 0.51 | 60.7 | 1.05 |

※1 畜産研究部門の推定式による。

登録品種

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

WCS用イネ品種

タチアオバ

晩生 極多収・極強稈



特徴

- 晩生で、九州向き。
- 極長稈にもかかわらず倒伏には極めて強く、直播栽培にも適する。
- 早植で全乾物収量が特に多収（2ト/10a以上）、普通期栽培でも収量は比較的確保しやすい。

栽培ポイント

- いもち病には基幹防除を励行する。
- 白葉枯病の常発地帯では作付けしない。
- 登熟を確保するために、落水時期に注意する。
- 多肥栽培が適する。

| 品 種 (対象品種) | 試験場所 | 移植日 月・日 | 出穂期 月・日 | 黄熟期 月・日 | 成熟期 月・日 | 稈長 cm | 乾物全重 t/10a | 玄米重 t/10a | WCS | |
|-------------------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|---------------|--------------|------------------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN 含量(%) ^{※1} | 推定TDN 収量t/10a |
| タチアオバ (ミナミヒカリ) | 福岡県 筑後市 | 5月21日 | 8月29日 | 10月3日 | 10月19日 | 107 | 2.13 | 0.66 | 55.7 | 1.19 |
| | | | 8月25日 | 9月23日 | 10月9日 | 86 | 1.69 | 0.56 | 55.4 | 0.93 |

※1 畜産研究部門の推定式による。

登録品種

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

飼料米・WCS 兼用品種

夢あおば

早生 耐倒伏性極強



特徴

- 「コシヒカリ」よりも早い早生熟期で、東北中南部・北陸・中部向き。
- 茎葉収量が高く、草型は穂重型で飼料用米にも利用可。
- 耐倒伏性は極強で、湛水直播栽培に適する。
- 脱粒性は難で、縞葉枯病に抵抗性がある。

栽培ポイント

- 多肥栽培に適するが、極端な多肥には留意する。
- いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。
- 湛水直播栽培で多収である。
- 耐冷性が弱いので、冷害の常襲地での栽培は避ける。
- 苗箱への播種量は多めに。（P13. 品種別粗粒数参照）

| 品種 (対象品種) | 試験場所 | 移植日 月・日 | 出穂期 月・日 | 黄熟期 月・日 | 成熟期 月・日 | 稈長 cm | 乾物全重 t/10a | 玄米重 t/10a | WCS | |
|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|---------------|--------------|------------------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN 含量(%) ^{*1} | 推定TDN 収量t/10a |
| 夢あおば (ふくひびき) | 新潟県 上越市 | 5月15日 | 7月29日 | 8月27日 | 9月10日 | 86 | 1.52 | 0.72 | 61.2 | 0.93 |
| | | | 7月27日 | 8月27日 | 9月7日 | 78 | 1.44 | 0.74 | 61.6 | 0.89 |

※1 畜産研究部門の推定式による。また、玄米の畜種別TDN収量については、日本標準飼料成分表等を参照願います。

登録品種

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

飼料米・WCS 兼用品種

べこあおば

早生 耐倒伏性に優れる



特徴

- 出穂期は「ひとめぼれ」並で東北中南部・北陸・中部向き。
- 短稈で耐倒伏性が強く、直播栽培にも向いている。
- 黄熟期における収量（全重）が安定して高く飼料用米にも利用可。
- 耐倒伏性に優れ家畜ふん堆肥施用などの多肥栽培に向いている。

栽培ポイント

- 苗箱への播種量は多めに。（P13. 品種別粗粒数参照）

| 品種 (対象品種) | 試験場所 | 移植日 月・日 | 出穂期 月・日 | 黄熟期 月・日 | 成熟期 月・日 | 稈長 cm | 乾物全重 t/10a | 玄米重 t/10a | WCS | |
|------------------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|---------------|--------------|------------------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN 含量(%) ^{*1} | 推定TDN 収量t/10a |
| べこあおば (ふくひびき) | 秋田県 大仙市 | 5月22日 | 8月7日 | 9月14日 | 9月24日 | 70 | 1.37 | 0.73 | 61.9 | 0.86 |
| | | | 8月4日 | 9月4日 | 9月12日 | 72 | 1.23 | 0.69 | 62.9 | 0.77 |

※1 畜産研究部門の推定式による。また、玄米の畜種別TDN収量については、日本標準飼料成分表等を参照願います。

登録品種

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

飼料米・WCS 兼用品種

モミロマン

中晩生 耐倒伏性に優れる



特 徴

- 「日本晴」より遅い熟期。関東～中国・四国向き。
- 粗玄米収量が高くTDN収量も高い。飼料用米にも利用可。
- 耐倒伏性に優れ、直播栽培でも多収。
- 脱粒性は難で、食用米としての玄米品質は著しく劣り食用米と識別性がある。

栽培ポイント

- いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。
- 白葉枯病と縞葉枯病常発地帯では作付けしない。
- 水稲用除草剤の成分であるベンゾピシクロン、テフリルトリオン、メソトリオンに感受性なのでこれら成分を含む除草剤を使用しない。

| 品 種 (対象品種) | 試験場所 | 移植日 月・日 | 出穂期 月・日 | 黄熟期 月・日 | 成熟期 月・日 | 稈長 cm | 乾物全重 t/10a | 玄米重 t/10a | WCS | |
|----------------|----------------|------------|------------|------------|------------|----------|---------------|--------------|------------------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN 含量(%) ^{*1} | 推定TDN 収量t/10a |
| モミロマン (日本晴) | 茨城県 つくばみらい市 | 5月17日 | 8月15日 | 9月15日 | 10月9日 | 89 | 1.80 | 0.82 | 61.0 | 1.10 |
| | | | 8月17日 | 9月17日 | 9月27日 | 90 | 1.76 | 0.60 | 57.9 | 1.02 |

※1 畜産研究部門の推定式による。また、玄米の畜種別TDN収量については、日本標準飼料成分表等を参照願います。

飼料米・WCS 兼用品種

クサホナミ

晩生 無毛品種



特 徴

- 晩生熟期で、関東～中国・四国向き。
- 茎葉と子実収量の両方が高く、草型は極穂重型で飼料用米にも利用可。葉や籾は無毛である。
- 稈長は高いが、稈質は強く、耐倒伏性は強である。
- 脱粒性は難で、縞葉枯病に抵抗性がある。

栽培ポイント

- 多肥栽培が適するが、極端な多肥には留意する。
- いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。
- 縞葉枯病抵抗性の程度は高くないので、常発地では注意を要する。

| 品 種 (対象品種) | 試験場所 | 移植日 月・日 | 出穂期 月・日 | 黄熟期 月・日 | 成熟期 月・日 | 稈長 cm | 乾物全重 t/10a | 玄米重 t/10a | WCS | |
|----------------|-------------|------------|------------|------------|------------|----------|---------------|--------------|------------------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN 含量(%) ^{*1} | 推定TDN 収量t/10a |
| クサホナミ (日本晴) | 茨城県 つくば市 | 5月17日 | 8月24日 | — | 10月16日 | 93 | 1.90 | 0.67 | 58.3 | 1.02 |
| | | | 8月15日 | — | 9月28日 | 88 | 1.68 | 0.52 | 58.3 | 0.84 |

※1 畜産研究部門の推定式による。また、玄米の畜種別TDN収量については、日本標準飼料成分表等を参照願います。

登録品種

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

飼料米・WCS 兼用品種

モグモグあおば

晩生 耐倒伏性に優れる



特徴

- 出穂期、黄熟期とも「ニシアオバ」とほぼ同程度。
- 暖地の平坦部では晩生に属する九州地域等暖地向き。
- 稈は太く、稈質は剛で、耐倒伏性は“強”。
- 大粒のため食用イネとの識別性がある。
- 地上部乾物収量は早植・普通期極多肥栽培ではいずれも「ニシアオバ」より多収。

栽培ポイント

- 生育量を確保するため多肥栽培を基本とする。
- いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。
- 育苗に際しては播種量を多めに。（P13. 品種別粒数参照）

| 品 種 | 試験場所 | 移植日 | 出穂期 | 黄熟期 | 成熟期 | 稈長 | 乾物全重 | 玄米重 | WCS | |
|--------------------|------------|-------|-------|-------|-------|-----|------|--------------------|------------------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 推定TDN 含量(%) ^{*1} | 推定TDN 収量t/10a |
| モグモグあおば (ニシアオバ) | 福岡県 筑後市 | 5月21日 | 8月17日 | 9月20日 | 10月8日 | 104 | 1.92 | 0.72 | 57.3 | 1.10 |
| | | | 8月17日 | 9月19日 | 9月29日 | 101 | 1.64 | 0.65 ^{*2} | 58.1 | 1.00 |

※1 畜産研究部門の推定式による。

※2 粒重（新品种決定に関する参考成績書による）。また、玄米の畜種別TDN収量については、日本標準飼料成分表等を参照願います。

登録品種

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

飼料米用品種

みなちから

中生 縞葉枯病抵抗性・短稈・大粒多収



特徴

- 多肥栽培により10アール当たり粗玄米収量800kgに近い収量性。
- 短稈、強稈で倒れにくいいため、直播栽培にも対応。
- セジロウanka、縞葉枯病、いもち病に強いいため、安定した生産が可能。
- 脱粒性は難である。

栽培ポイント

- 苗箱への播種量は多めに。（P13. 品種別粒数参照）
- 水稻用除草剤の成分であるベンゾピシクロン、テフリルトリオン、メソトリオンに感受性なのでこれら成分を含む除草剤を使用しない。
- ごま葉枯病の抵抗性が不明であるが、育苗後半に発生することがあるのでテクリードCフロアブルやモミガードC水和剤等で種子消毒を行う。

| 品 種 | 試験場所 | 移植日 | 出穂期 | 黄熟期 | 成熟期 | 稈長 | 乾物全重 | 玄米重 |
|------------------|------|------|-------|-----|--------|-----|-------|-------|
| (対象品種) | | 月・日 | 月・日 | 月・日 | 月・日 | cm | t/10a | t/10a |
| みなちから (ホシアオバ) | 福山市 | 6月5日 | 8月14日 | — | 10月13日 | 82 | 2.21 | 0.79 |
| | | | 8月11日 | — | 10月3日 | 106 | 2.2 | 0.77 |

※ 2014～2018年の平均。窒素施肥量14.9kg/10a

※ 玄米の畜種別TDN収量については、日本標準飼料成分表等を参照願います。

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

登録品種

飼料米用品種

ミスホチカラ

晩生 短強稈の子実多収品種



特徴

- 「ニシホマレ」並の晩生の晩熟期で、九州を中心とする暖地栽培に適す。
- 粗玄米収量が「ニシホマレ」より20%多収で飼料用米向き。米粉適性も高いがWCS用には不向き。
- 稈質が強く、耐倒伏性に優れ、直播栽培も可。
- 脱粒性は難で、食用米としての玄米品質は著しく劣り食用品種と識別性がある。

栽培ポイント

- いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。
- 多収を得るため、早植えや多肥栽培が適する。
- 登熟期間が50日以上かかり落水時期に注意が必要。
- 水稲用除草剤の成分であるベンゾピシクロン、テフリルトリオン、メソトリオンに感受性なのでこれら成分を含む除草剤を使用しない。

| 品種 | 試験場所 | 移植日 | 出穂期 | 黄熟期 | 成熟期 | 稈長 | 乾物全重 | 玄米重 |
|---------|------------|-------|------|-----|--------|----|-------|-------|
| (対象品種) | | 月・日 | 月・日 | 月・日 | 月・日 | cm | t/10a | t/10a |
| ミスホチカラ | 福岡県 筑後市 | 5月23日 | 9月2日 | — | 11月3日 | 76 | 1.62 | 0.73 |
| (ニシホマレ) | | | 9月3日 | — | 10月21日 | 91 | 1.49 | 0.61 |

※ 玄米の畜種別TDN収量については、日本標準飼料成分表等を参照願います。

飼料増産

水田裏作でイタリアンライグラスを栽培しましょう

品種登録出願中

キュウシュウワン

Kyushu1

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）



極早生品種
いもち病抵抗性

登録品種

はやまき18

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）



早生品種
いもち病抵抗性

登録品種

きららワセ

海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）



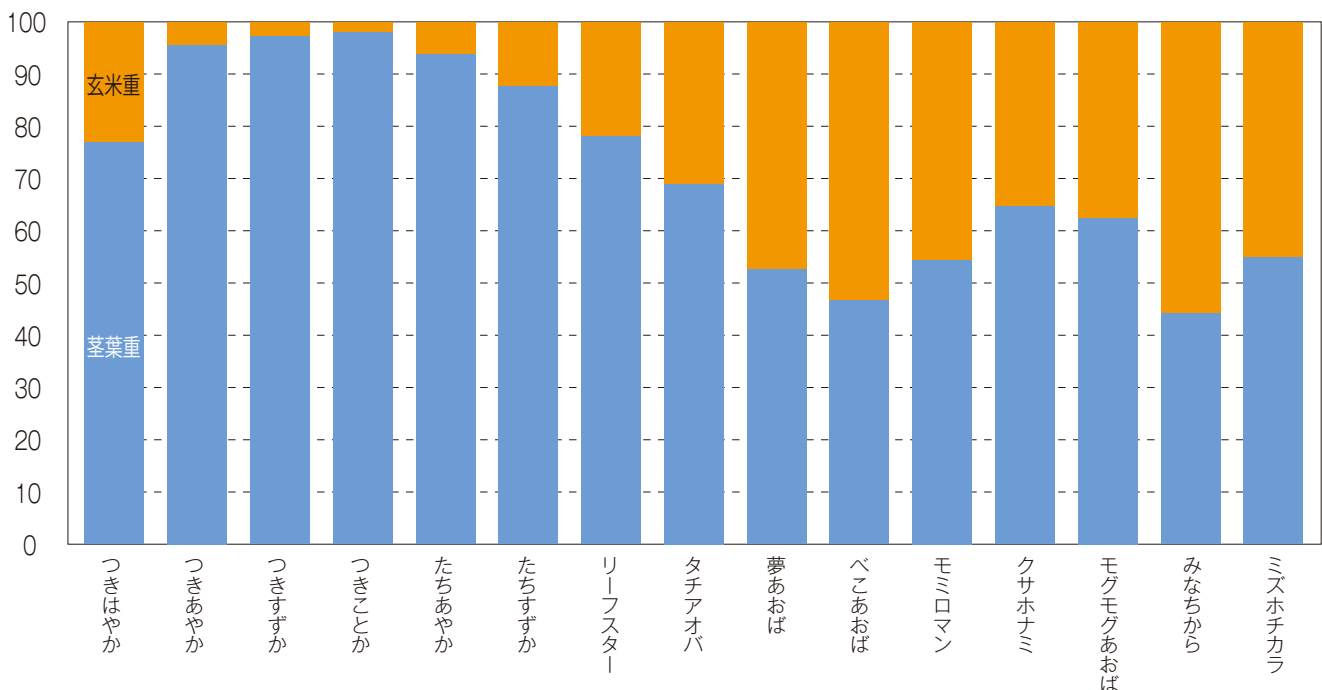
早生の4倍体品種

品種別籾粒数早見表

(一社) 日本草地畜産種子協会生産種子平均

| 項目 | 籾千粒重 (g) | コシヒカリに 対する粒重比(%) | 200g (粒) | 190g (粒) | 180g (粒) | 170g (粒) | 160g (粒) | 150g (粒) |
|---------|----------|---------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| コシヒカリ | 24.7 | 100 | 8,090 | 7,690 | 7,280 | 6,880 | 6,470 | 6,070 |
| つきはやか | 24.5 | 99 | 8,150 | 7,740 | 7,340 | 6,930 | 6,520 | 6,110 |
| つきあやか | 27.9 | 113 | 7,170 | 6,810 | 6,450 | 6,090 | 5,740 | 5,380 |
| つきすずか | 29.5 | 119 | 6,780 | 6,440 | 6,100 | 5,760 | 5,420 | 5,080 |
| つきことか | 24.2 | 98 | 8,260 | 7,850 | 7,440 | 7,020 | 6,610 | 6,200 |
| たちあやか | 26.7 | 108 | 7,500 | 7,130 | 6,750 | 6,380 | 6,000 | 5,630 |
| たちすずか | 28.6 | 116 | 7,000 | 6,650 | 6,300 | 5,950 | 5,600 | 5,250 |
| リーフスター | 24.9 | 101 | 8,030 | 7,630 | 7,220 | 6,820 | 6,420 | 6,020 |
| タチアオバ | 28.0 | 113 | 7,140 | 6,780 | 6,420 | 6,070 | 5,710 | 5,350 |
| 夢あおば | 31.1 | 126 | 6,430 | 6,100 | 5,780 | 5,460 | 5,140 | 4,820 |
| べこあおば | 37.3 | 151 | 5,360 | 5,090 | 4,820 | 4,550 | 4,280 | 4,020 |
| モミロマン | 28.7 | 116 | 6,960 | 6,620 | 6,270 | 5,920 | 5,570 | 5,220 |
| クサホナミ | 27.8 | 113 | 7,190 | 6,830 | 6,470 | 6,110 | 5,750 | 5,390 |
| モグモグあおば | 35.8 | 145 | 5,580 | 5,300 | 5,020 | 4,740 | 4,460 | 4,180 |
| みなちから | 29.9 | 121 | 6,690 | 6,350 | 6,020 | 5,690 | 5,350 | 5,020 |
| ミスホチカラ | 26.9 | 109 | 7,430 | 7,060 | 6,690 | 6,310 | 5,940 | 5,570 |

品種別乾物全重に占める玄米重比 (%)

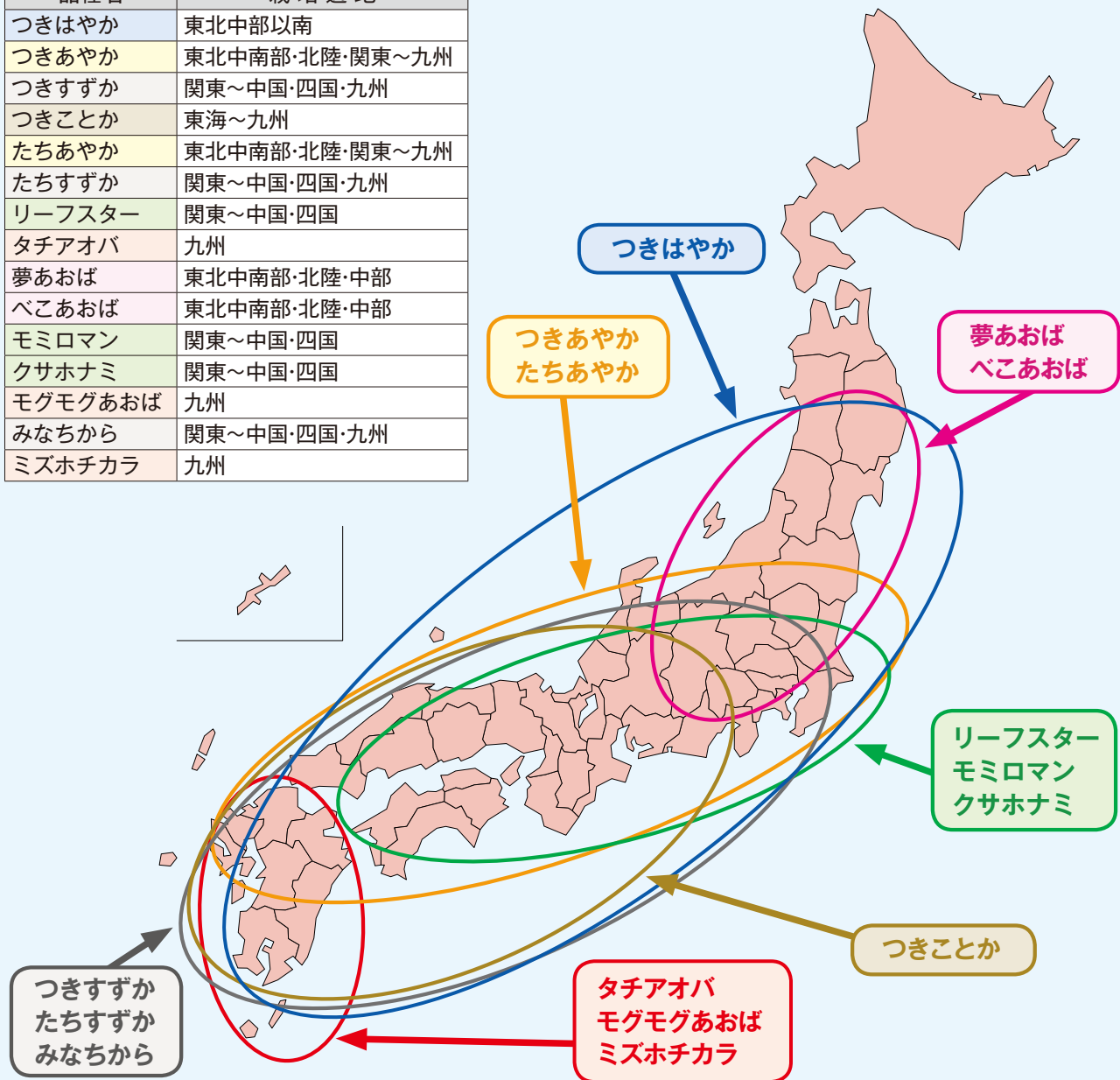


飼料用イネ品種の特性一覧

| 品種名 | 掲載ページ | 栽培適地 | 用途(飼料用) | | 形質 | | | | 耐病性 | | | 栽培上の注意 |
|---------|-------|----------------|---------|-----|-----|-----|-----|------|--------------|------|------|---|
| | | | WCS | 飼料米 | 早晚性 | 稈長 | 草型 | 耐倒伏性 | いもち病 | 白葉枯病 | 縞葉枯病 | |
| つきはやか | 5 | 東北中部以南 | ○ | × | 早 | 長 | 茎葉型 | 極強 | 不明 | やや弱 | 抵抗性 | いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。 |
| つきあやか | 5 | 東北部・北関東以南 | ○ | × | 中 | 長 | 茎葉型 | 極強 | 不明 | 中 | 抵抗性 | いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。 |
| つきすずか | 6 | 関東～九州 | ○ | × | 晩 | 極長 | 茎葉型 | 極強 | 不明 | 強 | 抵抗性 | いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。 |
| つきことか | 6 | 東海～九州 | ○ | × | 極晩 | 極長 | 茎葉型 | やや強 | 不明 | やや強 | 抵抗性 | 極長稈で倒伏することがあるため、密植や極端な多肥は避ける。いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。 |
| たちあやか | 7 | 東北中南部・北陸・関東～九州 | ○ | × | 中 | 長 | 茎葉型 | 極強 | 不明 | 中 | 罹病性 | いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。 |
| たちすずか | 7 | 関東～九州 | ○ | × | 晩 | 極長 | 茎葉型 | 極強 | 不明 | 強 | 罹病性 | いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。 |
| リーフスター | 8 | 関東～中国・四国 | ○ | × | 晩 | 極長 | 茎葉型 | 強 | 中 | 中 | 罹病性 | 極端な多肥栽培は避けること。いもち病には見かけ上は強いが、基幹防除を励行する。 |
| タチアオバ | 8 | 九州 | ○ | × | 晩 | 極長 | 穂重型 | 極強 | 中 | やや弱 | 抵抗性 | いもち病には基幹防除を励行する。 |
| 夢あおば | 9 | 東北中南部・北陸・中部 | ○ | ○ | 早 | 中 | 穂重型 | 強 | 不明 | 強 | 抵抗性 | いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。 |
| べこあおば | 9 | 東北中南部・北陸・中部 | ○ | ○ | 早 | 短 | 穂重型 | 強 | 弱 (圃場抵抗性) | 弱 | 罹病性 | いもち病真性抵抗性があり、いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。大粒種子のため播種量を多めにする。 |
| モミロマン | 10 | 関東～中国・四国 | ○ | ○ | 中晩 | やや短 | 穂重型 | 極強 | 不明 | 弱 | 罹病性 | いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、病原菌のレースの変化に注意する。また、白葉枯病、縞葉枯病に罹病性であるので、常発地での作付は避ける。除草剤の成分であるベンゾピシクロン、テフリルトリオン、メソトリオンに感受性なので、これら成分を含む除草剤は使用しない。 |
| クサホナミ | 10 | 関東～中国・四国 | ○ | ○ | 晩 | 長 | 穂重型 | 強 | 不明 | やや強 | 抵抗性 | いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。極端な多肥は避けること。縞葉枯病抵抗性の程度は高くないので、常発地では注意を要する。 |
| モグモグあおば | 11 | 九州 | ○ | ○ | 晩 | 長 | 穂重型 | 強 | 不明 | やや弱 | 抵抗性 | いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。 |
| みなちから | 11 | 関東～九州 | × | ○ | 中 | 短 | 穂重型 | 極強 | 強 | やや弱 | 抵抗性 | 除草剤の成分であるベンゾピシクロン、テフリルトリオン、メソトリオンに感受性なので、これら成分を含む除草剤は使用しない。ごま葉枯病の抵抗性が不明であるが、育苗後半に発生することがあるので、薬剤による種子消毒を行う。 |
| ミスホチカラ | 12 | 九州 | × | ○ | 晩 | 短 | 穂重型 | 極強 | 不明 | 弱 | 罹病性 | いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。除草剤の成分であるベンゾピシクロン、テフリルトリオン、メソトリオンに感受性なので、これら成分を含む除草剤は使用しない。 |

飼料用イネ品種の地域適応性

| 品種名 | 栽培適地 |
|---------|----------------|
| つきはやか | 東北中部以南 |
| つきあやか | 東北中南部・北陸・関東～九州 |
| つきすずか | 関東～中国・四国・九州 |
| つきことか | 東海～九州 |
| たちあやか | 東北中南部・北陸・関東～九州 |
| たちすずか | 関東～中国・四国・九州 |
| リーフスター | 関東～中国・四国 |
| タチアオバ | 九州 |
| 夢あおば | 東北中南部・北陸・中部 |
| べこあおば | 東北中南部・北陸・中部 |
| モミロマン | 関東～中国・四国 |
| クサホナミ | 関東～中国・四国 |
| モグモグあおば | 九州 |
| みなちから | 関東～中国・四国・九州 |
| ミズホチカラ | 九州 |



<種子の入手方法について>

現在、飼料用イネ専用品種の種子については、(一社)日本草地畜産種子協会等から供給されていますが、都道府県においても栽培用種子の供給が行われています。各都道府県にもお問い合わせください。

なお、(一社)日本草地畜産種子協会から、種子の配布をする場合は以下の通りです。

1. 種子配布の申し込みは、各都道府県の畜産・農産課等担当窓口へお申し込み下さい。
2. 配布重量は、各品目とも20kg単位です。
3. 配布価格は、各都道府県の畜産・農産課等担当部署または当協会にお問い合わせ下さい。
4. 配布時期は、令和6年1月下旬以降を予定しています。

5. 問い合わせ先：〒101-0035東京都千代田区神田紺屋町8番地 NCO神田紺屋町ビル 4階

(一社)日本草地畜産種子協会 電話 03-3251-6501 FAX 03-3251-6507

原稿執筆
等協力

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
作物研究部門／北海道農業研究センター／東北農業研究センター
中日本農業研究センター／西日本農業研究センター／九州沖縄農業研究センター
畜産研究部門